第49回 教育講座

たくさんの仲間とゆたかな実践に出会える場です。困難な時代(いま)だからこそいっしょに学び合いましょう。

■日時　2025年　7月26日（土）
■場所　高知県立県民文化ホール　（高知市本町4-3-30）
（午前）4F 第6多目的室
（午後）1～4F 各多目的室・埋蔵文化財センター（社会科教育）

■日程

9:20	9:40	10:00	12:00	13:20	13:30	15:00	15:10	16:40

受付	全体会		昼食・移動	受付	分科会		
	開会行事	記念講演			講座1	休憩	講座2

＊＊＊記念講演＊＊＊

「子ども・先生・保護者・地域もみんなぁで幸せになる学校を
～人生を励ましあえる学校と教職員集団づくり～」

講師：福田　八重さん

高知出身。帝京科学大学准教授・専門分野「教育学」全生研研究全国委員。小・中高（国語）教員専修免許を持ち、現在も足立区の中学校へ週1回教科指導専門員として若い先生方をサポートしている。
主な著書・論文　『学級崩壊と学級の再生』『現代の子ども問題と発達支援』『子どもの発達と成長を励ます不登校支援』等多数。

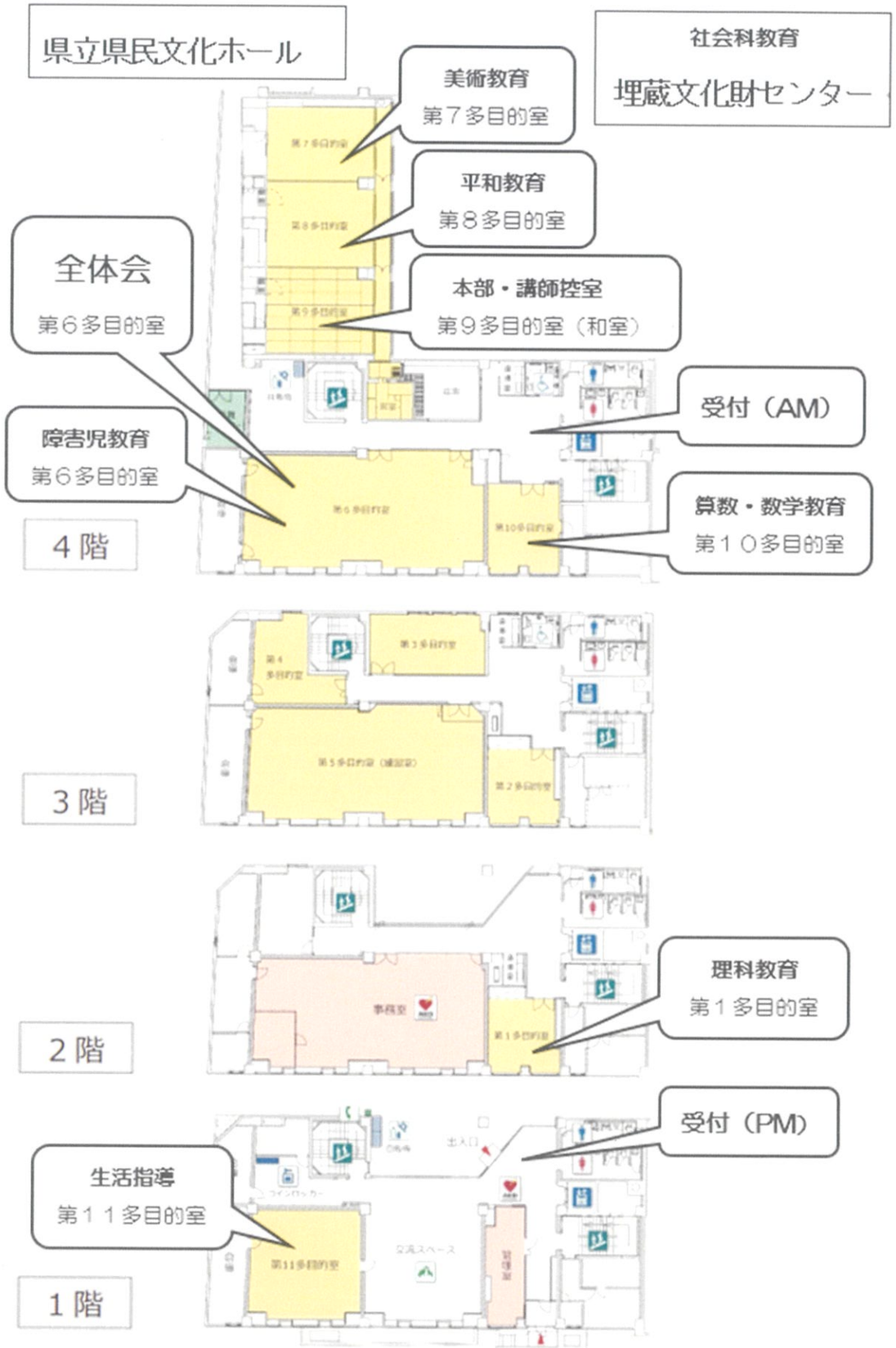
＊＊＊分科会＊＊＊　分科会については裏面をご覧ください

1　社会科教育　2　算数・数学教育　3　理科教育　4　美術教育
5　生活指導　6　障害児教育　7　平和学習教育

■参加費
A券　全日程券　２５００円
B券　記念講演券　１５００円
C券　分科会券　１５００円
学生券　全日程　５００円

※前売り券・当日券とも参加費は同額です
※チケット購入方法
（各サークル　各郡市高教職員組合
各学校分会　当日の会場）

■主催　第49回教育講座実行委員会　高知市丸ノ内2-1-10（高知城ホール内）
TEL０８８－８２２－４１３５
■後援　高知市教育委員会〈申請中〉・（公財）日本教育公務員弘済会高知支部〈申請中〉
■昼食　各自周辺でお取りください　■駐車　周辺の駐車場をご利用ください
※午前6時、特別警報，暴風警報が1つでも高知市に出ている場合中止します



第４９回教育講座　　開催分科会一覧　（分科会会場）

本部：第９多目的室

No	分科会	テーマ	講師名	内　容	会場
1	社会科教育	（講座１）（講座２） 国内最古級の漢字土器	埋蔵文化財センター 担当職員	 南国市で漢字２文字が刻まれた土器が発見されました。弥生終末期と言われていますから、ちょうど卑弥呼が活躍していた年代です。国内最古級の漢字土器がなぜ高知県で？この土器を見ながら、古代日本人の漢字との関りを講師と一緒に考えたいと思います。 当日は、「発掘へんろ展－墳墓－」が展示されていますので解説頂きます。また、バックヤードも見学させていただけるということです。	埋蔵文化財センター
2	算数・数学教育	（講座１） ICT と授業の今後を考えてみよう！ －デジタル化で授業はどうなるか－ “あなたの算数”を教えるために教科書と どう向き合い、どんな授業をつくり出すか！？	正木　哲雄　さん （元高校教員）	教える内容・時間数・方法と規制が進み，タブレットもひとり１台！と押し付けられる中で，今，子どもが分かる・楽しい！できる力が増えるという授業づくりをしたいものです。機械をどのタイミングでどのように登場させるのか！教科書を学ぶ？教科書の内容を学ぶ？ 学びは、きっと楽しいはず！でも、学びをあきらめてしまう子，「算数が嫌い」という子も少なくはありません。こうすればできる！あきらめない！と，子どもと先生を励ます授業づくりを目指します。	第１０多目的室
		（講座２） 『飛び出せ！算数・数学』	末定　整基　さん （大東文化大学講師）	学びは教室だけにあるわけではありません。学校や教室の外にも、子ども達が学ぶこともたくさんあります。十年前の実践を振り返りながら、特別支援教室の子ども達が自然に触れ合う中で、なぜ学ぶことに意欲を持ち始めたかを考えます。 私たちが普段の算数・数学の授業で教科書を通して教えていることが、如何に矛盾に満ちたことを無理に押しつけているのか。そのことを子ども達の学ぶ姿を通して教えてもらいました。	
3	理科教育	（講座１）　小・中・高 向け 光の３原色の実験，実像・虚像の実験	田辺 益広　さん	理科授業にのぞむにあたって，小さいこともよいので interesting と challenging なものを用意したいものです。 子どもたちは interesting なものとの出会いで Why が湧き上がり，challenging な課題を通して新たな不思議の発見や学びの広がりにつながっていくからです。 白色光と色の不思議を実感できる実験，教科書とは一味違った実像や虚像の実験をご紹介します。実験グッズの参加者へのプレゼントも準備中です。	第１多目的室
		（講座２）　小・中・高 向け 浮力 Vs 重力で浮き沈みする『浮沈子』を 使った探究的な授業		授業に必須な interesting と challenging がある授業を浮沈子を題材にご紹介をします。 教師の教材理解の上に成立する「子どもたちが体験的にたのしく学ぶこと」の重要性を体感できると思います。浮沈子グッズの参加者へのプレゼントも準備中です。ぜひ，ご参加ください。	
4	教　美術教育	（講座１）重曹アートって何？	加藤　優子　さん （中学校教員）	重曹と絵の具と水の混ぜ具合やどのような表現ができるのか、様々な表現方法を試してみましょう。	第７多目的室
		（講座２）重曹アートを作ってみよう		百均で揃えられるフレームに重曹アート作品を作ってみましょう。	
5	生活指導	（講座１） いじめ・不登校を考える ～一人一人の人生が大切にされる学校とは～	福田　八重　さん （帝京科学大学 准教授）	不登校児童生徒数約３５万人という衝撃的な数が発表されました。いじめの認知件数も小中学校で 70 万人を超えています。子どもたちが感じている生きづらさはどのようなものなのでしょうか。心と身体に何が起こっているのでしょう。そして、私たちには、どのような指導（ケアを含）や支援ができるのでしょうか。また、どのような学校をつくっていけば、よいのでしょうか。全体会講師の福田先生と共に考えていきましょう。	第１１多目的室
		（講座２） 学びと生活指導 ～子どもたちから立ち上がってくる問から つくる学びと学校～		学校にスタンダードの嵐が吹き荒れ、どんな地域のどんな規模の学校でも、同じような授業が行われています。しかし、目の前の子どもたちは、毎日の授業に瞳を輝かせ、生き生きと学ぶことができているのでしょうか？ 生活現実から出発し、学びを通して世の中を見つめ直したり、自らの生活を想像・創造したり、そんな「学び」について一緒に考えませんか。夏休み明けてからの、子どもたちとの楽しい学びを構想していきましょう。	
6	障害児教育	（講座１） 子ども・なかまの悩み・喜びに出会って 私たちは、実践・子育ての主体者になっていく	竹沢　清　さん （あいち障害者センター講師・元愛知県聾学校教員）	子ども・なかま（障害者）との出会いは、ともすると「気になる行動」「問題行動」との出会い―。 どうすれば、働きかけの糸口を見つけることができるか。実践をもとに、原則・教訓を共有することで、あすの実践・子育てに役立つ話合いになるといいですね。	第６多目的室
		（講座２） 思いを表し、人に伝わる実践記録の書き方 ＜実習編＞		「書くことは苦手」と言う人が多いです。でも、それでいいんです。「事実に即した表現」を試行錯誤しながら探る中で、子ども理解・なかま理解が深まります。「書くことでいいことがある」―どうすれば、自分の思いを表し、人に伝わる記録が書けるようになるか、を具体的に学びます。	
7	平和学習教育	（講座１） 「銃後」と「国防」について学ぼう	小林　郁生さん （古本「山猫や」店主）	戦時中は「銃後の守り」ということで、皇民教育としても重視されていました。このことは、戦争の「加担」という言い方で平和を考える新たな視点を提起してくれています。	第８多目的室
		（講座２） ビキニ水爆事件と戦後の核開発について学ぼう	濵田　郁夫さん （太平洋核被災支援センター）	1954 年のビキニ水爆事件では、第五福竜丸とともにのべ 1000 隻のマグロ船が被ばくしていることが明らかになっています。この事件は戦後くり返された核実験も明らかにしています。	